



兵庫教育大学 大学院同窓会 会報

第三十四号

平成二十二年三月発行

兵庫教育大学大学院
同窓会 広報部

大学院同窓会の 活発化に向けて

兵庫教育大学大学院同窓会 会長 大橋 博



大学と同窓会が連携を取れるということ、とても素晴らしいことだと思います。兵庫教育大学においても、平成21年4月から、都道府県連携推進本部のスタートと共に、同窓会もその部

屋に同居することになりました。また、事務局長も大学側より採用していただき、非常勤の事務局長や事務局員がいるというのは、こんなに順調に事が進むのかと、ありがたく思っています。

私は、平成21年6月に、同窓会会長に就任させていただき、月一回の都道府県連携推進本部会議に出席しますと、大学として「同窓会を活発化したい、育ててみたい」との意気込みが伝わってきます。私が会長になって最初に

考えたことは、「同窓会に入っていて良かったなあ」と思えるような機会を多く作りたいということです。そのスタートとして、同窓会による表彰制度を作りました。これには大学側も全面的にご賛同いただき、表彰状には、学長名も授与者として連ねていただけるところになりました。社のキャンパスで学んだ仲間たちが、いかに社会で活躍したのか、あるいは教育界に貢献したのか、互いにそんなことを見つけ合い、称え合うものになればと考えています。どうぞご遠慮なく、「こんな活動ではどうだろうか」といった気持ちで、表彰対象となる事柄の資料を事務局にお送りください。孫たちから「おじいちゃん、すごいんだなあ」「おばあちゃん、すてきなね」と言ってもらえるような、きつと立派な表彰状になると思っています。

また2つ目は、全国大会をより活性化していきたいと思えます。平成22年度は岡山県、23年度は岐阜県での開催が決まっています。是非ご参加いただき、単に懇親を深めるだけでなく、「やっぱり来て良かった」と言っていただけのような、情報が飛び交う会にしたいと思っています。日頃は、教員や教育者という肩書きを冠にかぶり、どうしても堅苦しい生き方となるよう

な人生ではないかと思えます。せめて、このような機会に、本音の言葉を語っていただくことで、何かがそこから誕生してくるものと確信しています。

私も平成19年4月1日に、岡山市で環太平洋大学を開学することが出来ました。平成2年に、ニュージールランドで初めての私立国際大学の認可をいただき、大学経営を行ってきましてはありますが、「研究とは」、「大学人とは」という知識において、若干自信がなかったというのが本当のところではあります。切つて20期生として大学院に入学し、1年目は丸々職場から離れて、院生生活を感じる存分満喫しました。2年目は指導教官に頭を煩わしていただきながらの修論でしたが、自分なりに初めての良い体験もしました。その影響でしょうか、娘婿も兵庫教育大学大学院に通わせることになりました。環太平洋大学の中にも、兵教の卒業生や、かつて兵教で教鞭を執られていた方が8名おります。

私は今、4月から始まる完成年度を迎えるにあたり、「研究者からの教員」、「教育現場を知り尽くした実務家からの教員」、その両輪で大学運営を行うことを夢としております。岡山の全国大会では、そんなお話もさせていただきます。機会があればと思っています。

都道府県連携推進本部を設置

— 大学と学校現場との新たな連携を目指して —

都道府県連携推進本部 事務局長 伊藤 泰弘

平成21年4月、兵庫教育大学に「都道府県連携推進本部」が設置されました。同本部は、大学院同窓会とも連携しながら、全国の修了生との交流を通して教育現場の活性化と大学の教育実践研究の発展に貢献することをめざしています。

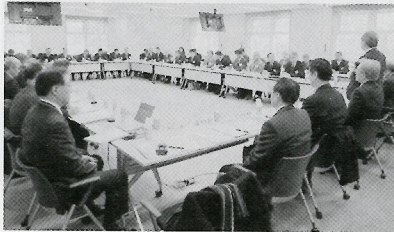
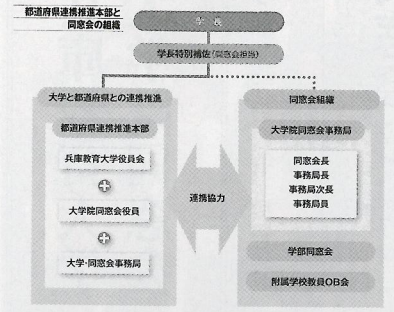
設など、教育研究・研修機関としての拡大充実が図られながら、今や修了生は7,200人を超え、そのほとんどが全国の学校や教育行政・研究機関で活躍しておられます。

「都道府県連携推進本部」は同窓会との連携のもと、教育課題の解決に日々努めておられる修了生から現状や課題を汲み上げ、それを大学の教育研究に生かすこと、また、大学の研究成果を修了生の皆さまに還元すること

□設置の背景と目的

兵庫教育大学大学院は昭和55年に一期生を受け入れて以来、主に現職教員を対象に教育実践研究、教職研修に取り組んできました。30年間の歩みの中では、講座・コースの組み替えや新設、また名称変更、神戸サテライトの設置、教職大学院の開

□同窓会との組織連携



都道府県連携推進会議 (22.1.23 大阪)

で、教育現場と大学の双方により良い教育実践の実現を図っていくという役割を担っています。同本部はこれらのねらいに沿って、大学と学校現場との新たな連携推進に努めてまいります。

□連携推進本部の主な活動

①修了生等の教育実践活動を支援します。

・講師派遣など研究活動の支援
・修了生と大学教員との共同研究に経費援助 (21年新設)
・修了生の功績表彰 (22年新設)

②現職教員学生の確保及び受入を推進します。
・同窓会都道府県評議員等を連携推進本部参与に委嘱

③実践的な教育研究情報の収集と発信に努めます。
・教育実践ネットワーク (Hyogo-net) をリニューアルオープン (22年4月)

「使い易い・親しみある・参加型の」サイト構築を目標に改善内容を検討

④各種の広報活動を展開します。
・推進本部活動や大学院同窓会活動の広告
・時事ネタの掲載、修了生と在学生との交流、また掲示板の意見交換や相談等々のコーナーを新設

⑤修了生・卒業生・附属学校園OB教員等の名簿を管理しています。
Hyogo-net、教育子午線、日本教育新聞他に記事掲載
・広報資料の配布
・教育機関 (大阪・神戸・東京サテライト、神戸市総合教育センター等) に常備
・本学修了生に送付

□事務局

現事務局の西隣に新設された総合研究棟2階に移りました。電話・ファックス番号が変更されています。

都道府県連携推進本部大学院同窓会事務局
〒673-1494 加東市下久米942-1
Tel 0795-44-2375 44-2406
Fax 0795-44-2376
E-mail office-dosokai@hyogo-u.ac.jp
伊藤 泰弘・高見 勉・阿江 佳恵

「兵庫教育大学 大学院修了生に期待するもの」

講演

「これからの日本の教育と大学院の在り方」(要旨)

講師 兵庫教育大学長 梶田 叡一



新しいミツシオンを持った教育大学をつくらなければならない、と、一九七一年に話が出てから、兵庫教育大が第一号となり、現在はドクターコースまで設置された。数多くの現職教員を大学院生として受け入れる特別な大学院として研究を推進している。

一九九〇年前後から世の中が豊かなり寛容になって、うるさいこと言うな、子どもが自分で考えたらいい、子どもを信頼して任せようという風潮があった。メダカの学校であり、誰が生

徒か先生かの状況になった。日本の学校教育がだれてしまった。今回の学習指導要領は教育界を引き締めるためのものとなっている。

きちんとした指導が大切であり、教師はプロでなくてはならない。そのために兵庫教育大学はできた。学校は原点に返らなくてはならない。豊かな体験だけを求めるのではなく、勉強するところである。子どもたちは賢くならないといけない。それにはそこにプロがいる。素人が表面だけなのでると同じ授業をしてはならない。

松尾芭蕉の「古池や」の句ははじめは「やまぶきやかはず飛び込む水の音」だった、というような作品研究が今なされているか。そして、その活かし方の教材研究がなされているか。それがプロというものである。しかし、一九九〇年ごろから、そういう教材研究は少なくなった。

現在、教員がきちんと教え、子どもは理性的・知性的にものを見て賢くなることが求められている。発問・教材の準備、授業の組み立て、子どもの発言の何を取り上げるか。目がきらきらしているだけはいけない。大村はま先生が、一九九〇年から二〇〇〇年にかけて「今の先生は教えるということ」が分からなくなっている」と再三言っておられた。学びは内面の問題である。今、まさに教員養成に、力を入れないといけない時期である。

その一つは、もつと多くの現職教員が大学院レベルで学び直し、現場のリーダーになることが必要であろう。教職大学院は教員再教育のために作られたため、施設設備がよい。それを利用して作った学部からいい教師を送り出すことが二つ目であろう。

三つ目に、良きリーダー、教師を作っていくためには実践に即した教育研究を盛り上げなくてはならない。教師自身が二、三の専門を持ち、それをパツクグラウンドにして、子どもを賢くしていくことが大切である。

豊かになつて二十年、ゆとり教育を受けた世代が親になり社会は息詰まり崩れる状況にある。子ども中心になつ

たら勉強が好きになるはずなのに子ども任せにしたため、学力不振、意欲と努力の低下、価値感覚とけじめの未発達が見られ、こういった現実に対応するため、指導要領の改訂、多くの改革策が打ち出された。

教育にとつて本質的な「不易」についても学びを深めることが大事だ。これが十分でないとき激動の中で流されることになる。そのため、我々の世界を生きる力(確かな学力と関連づけ、社会できちんとやっていける力)と我の世界を生きる力(自分に固有の人生を充実させていく力) 双方を教育活動の中で育成していかなければならない。また、今回の学習指導要領は、もう一度昔からの深みのある教育に戻そうとしている。そのために教職大学院があり、免許更新も制度化された。

全国学力学習状況調査についても課題が残るが、教育は結果と科学的根拠が必要である。がんばっています、の印象論では、だめである。

今、兵庫教育大学大学院の修了生として、与えられた使命を考え直してもらいたい。かつて苦勞して学び直したその大きな意味を。そんな時を、今、迎えている。(文責…愛媛県同窓会)

演 講 記 念 「正岡子規の交友 —『坂の上の雲』の人たちと—」(要旨)

講師 兵庫教育大学大学院名誉教授

長谷川 孝士 先生



松山市では、司馬遼太郎氏の小説『坂の上の雲』を軸としたまちづくりが進められている。この小説には子規を中心に様々な人が登場する。交友関係にあった秋山真之。その兄、秋山好古。子規の母八重の弟である叔父、加藤拓川。彼は、ベルギーの大使、大阪新報社長、国会議員、松山市長を歴任した。大変存在感のある叔父で、子規は、非常に尊敬していた。また、明治の始め、政府司法省の官僚養成学校の一期生として入学した拓川の同級生に、陸羯南という人物がいる。羯南は、日本新聞社を興して社長を務めた。子規

は大学中退後、この新聞社に就職する。さて、司馬遼太郎氏がみた正岡子規の『坂の上の雲』に描かれた子規と関係のあった人物について述べてみたい。まず、「新潮日本文学アルバム」の後書きで司馬氏は子規を「書生の兄貴」と評したことからである。昭和56年、子規記念博物館完成記念講演でも、「子規を俳聖と呼ぶのは虫唾が走る」と言い、「子規は俳句だけではなく、ましてや聖人ではない。書生の兄貴だ」と言った。司馬氏は、子規を捉える上で、彼には固有のユーモラスがあったということを感覚として用意しておく必要がある、子規のおかしみの一つに、生涯書生であったことを挙げ、「根岸の小さな子規の借家で成立した書生サロンは、兄貴株の子規がよかつたために、日本文化の重要な部分を動かすもとなつた」と述べている。師弟関係ではなく、友人同士という人間関係に

おける子規の特質も「書生」と称する所以である。司馬氏は、子規が大変好きだったのだ。

次に、子規の文章改革について述べてみたい。司馬氏は、昭和50年、松山講演「言語についての雑感」の中の「文章日本語」で、子規と森鷗外、夏目漱石の三人が現在の「共通の文章日本語」の原型ともいふべき文章を発表したと称揚した。「美文調」の文章では、今日の「公害」や「ペトナム」を書くことはできないが、子規の文章ならばそれが可能だと述べた。

三番目には、死に近いことを予測した子規が、河東銓にあてた書簡に同封していた「墓誌銘」について述べたい。司馬氏はこの「墓誌銘」に大変感銘を受けている。「墓誌銘」には子規の三つのペンネームがでてくる。「子規」は全体的なペンネーム、「癩祭書屋主人」は評論、文章改革、「竹ノ里人」は歌人としてのペンネーム。子規は自分の生涯を俳句改革・短歌革新・文章改革ととらえていた。母親の旧姓の「大原氏」。陸羯南の会社「日本新聞社員」。羯南への感謝の気持ちをも表した「月給四十圓」。これらの表現に込

められた子規の思いにまで司馬氏は言及した。「墓誌銘」は子規が自分の生涯を総括したぎりぎりの表現だった。

四番目に司馬氏がとらえた子規について述べたい。『坂の上の雲』では真之と病床の子規との対話の場面で、子規は、「たとえ漢語や洋語、サンスクリットの詩を作っても日本人が作れば日本の文学」と述べ、また、「英国の軍艦を買い、ドイツの大砲を買おうとも、その運用が日本人の手でおこなわれ、その運用によつて勝てば、その勝利は日本人のものじゃ。…固陋はいけんぞな」と真之に熱っぽく語っている。

最後に、漱石との交友について述べる。「吾輩ハ猫アアル(中編)」巻頭の「序」に、子規の手紙を引用している。もし、漱石が引用していなければ、子規の最後の手紙を見ることはできなかったかもしれない。手紙の中で子規は、「生キテナルノガ苦シイノダ」と漱石に本音を書いている。漱石は、「此手紙を見る度に何だか故人に対して活まぬ事をした」と述懐している。

このように、子規は、司馬氏が言われるとおり、生涯書生の兄貴であった。

若手教員、学生、社会人を対象に

教師志望 人材育成 — 大阪・中之島

兵庫教育大学大学院同窓会副会長(研究部長) 中尾豊喜

「いま、学校の先生になりたい人が多い」と近畿地方の学生達から聴きます。その動機は、親の期待や安定感だそうです。なるほど、職員室には新卒から30代後半までの新任教員が続々とやってきましたが、彼らが求めることは、すぐに使える教材や指導方法です。この現実には少々困惑しています。この辺りが今回の主題です。

さて、教育公務員への道は、都市部では既に広き門になっています。今後は地方でも同じ状況でしょう。この教員採用の軋みや年齢構成の歪みは、学校文化に何らかの変容を来たすようで、危惧の念を抱きます。例えば、同僚性、教育観(学力観・生徒指導観)、保護者との関係性などがそれです。奇しくもこんな折、日本社会は市場主義経済にあり、学校現場も遅れつつもネオリベラリズムの影響による成果主義的思考、悪意はないが本質を見失った表層・形式的な対応が蔓延して

来しました。そして、この無批判な受け容れ方の傾向には(まじめ)という重大な勘違いも手伝って、結果的に教育行為の公共性を縮め、各々の私事化を増幅させました。偶然と言えるこの両者の出会いは、《教育》にとつて可視化されない極めて危険な現象なのです。

そこで、同窓会組織において研究部門を担う大阪府支部では、この社会環境の構造的な課題に応じた実践研究に取り掛かりました。その場が教師塾の先駆けとして平成18年夏、梶田叡一学長先生や川本幸彦副学長先生を迎え開講した「中之島M.O.セミナー」です。

ねらいは、技能取得のみにあらずして、「なぜ教員になりたいのか」「教員になって何をするのか」、抱く志を確信してもらうことです。その大志が人を導き、かつ心を育む行為に繋がると考えます。つまり、スキル偏重に陥ることなく、恒常的に「何のために」を自問自答し、近未来の市民社会建設を

射程に構えた教師として、次世代育成に使命感を抱き続けるからこそ、如何なる事例も普遍的な指導を可能にする

と換言できます。方法は、教員を志願する京阪神の国公立大学の院生・学部生、社会人、幼・小・中・高校の若手教員を対象に、講師や同窓会員が理論や実例を紹介し、討議を真剣に行っています。文献輪読会もあり、参加は無料です。

これまで、梶田学長先生の開講記念講演以降、Darryl T. Yag.先生の米国 Career education、国語・算数・道徳の授業法、生徒指導、子ども理解、キャリア教育、発声法、鑑賞教育など実施し、内容に応じ保護者やNPO職員、企業社員とも合同で開きました。

4年目に入り、3月で57回を数えます。昨年12月より大学と共同研究を組み、今後は都道府県連携推進本部やコラボレーションセンター、更に近隣支部とも連携を図りながら充実をめざしています。受講者は、東は台東区立小学校、西は神戸市立中学校へと各地に新任として赴任しました。

しかし、彼らの半数は赴任地で2年も経てば変わってしまいます。それは、

先述の成果主義的思考への感化なのか、現地で無意識に慣れ親しむのでしようか、これまでの志は縮小していません。仮にこれを日本人の精神構造の特性とみれば、例えば丸山眞男先生の「執拗低音」(Casso ostinato)という教示に照らしても、何が妥当かという論理性ではなく、その場の雰囲気に従うことを善としてしまつては、教員は「反省的实践家」教師には成り得ません。

利点は継承しても、否な点の世代間伝承は再考が必要でしょう。子ども、大人にしろ、私はこの課題克服こそ、正に《教育》という領域がなせる業と考えます。ここに今回の人材育成構想スキームの基点があるのです。



セミナー後の交流会(中之島「ダイビル」内)

撮影: 安藤 なな子

大学との望ましい連携で

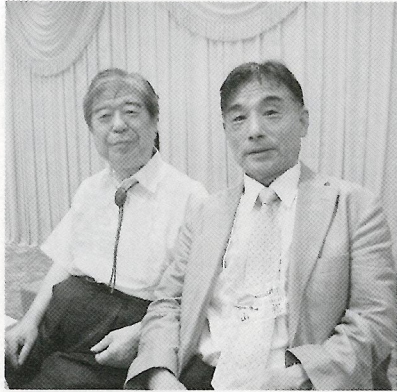
ますますの発展を

前同窓会長 山下 裕 (芸術系音楽5期)

会員の皆様には、日々研究と実践にご活躍のことと拝察いたします。

私こと、第29回同窓会愛媛大会を最後に会長を辞することとしました。

激動の大学改革の中で、同窓会の在り方について深く考えさせられました。例えば、新聞情報に兵庫教育大学への国からの予算が大幅に削減されるといふニュースが流れました。そのような時に大学のよりよい研究等を進めていただくために教育研究振興基金事業の



募金への積極的な協力を幾度となくお願いしたことを思い出します。望ましい大学との連携が大きな課題でした。

ところで、私は次の会長への橋渡しとして一期2年間の約束で会長を引き受け、時代の流れの中で今必要とされている「大学との新たな連携」の在り方を模索してきました。とりわけハーロ面での大学の協力には感謝しています。平成21年4月、大学の事務局内の一室に同窓会事務局と都道府県連携推進本部を設置していただきました。事務局長として大学院の修了生を非常勤職員に採用していただくこともできました。これで同窓会活動推進の基盤が保証され、現在に至っております。

同窓会会員に求められていることは、職場にいる有望な教員に本大学院で学ぶことを強く促進していただくことです。各自自治体では財政上の理由で

大学院への派遣が極めて困難になりつつありますが、大学院修学休業制度を活用して現在でも研究・研修をされている院生もいます。こういう場合、大学の配慮として授業料の免除をはじめ、奨学金を受けることも可能になってきました。

また、修了生と大学教員による共同研究のために修了生を対象に経費の一部を補助していただくことも可能になりました。連携推進本部からその案内が届けられているところです。さらに、本大学の研究成果、全国から収集した優れた教材や実践資料(研究のまとめ等)をデータベース化したものを修了生等に発信できるようにします。今後の研究に役立つものと確信します。

今や大学と同窓会の連携は確固たるものになりました。全ての修了生が大学へ恩返しをする気持ちと同窓会活動にも参加していただきたいと思えます。

同窓会のさらなる飛躍を次の大橋会長と役員に託すとともに、会員の皆様のご活躍とご発展を心よりお祈り申し上げます。

編集後記

多くの方々のご支援・ご協力をいただき、お陰様で本会報を発行することができました。誠にありがとうございました。

会報を読み直してみても、指導技術や数値による評価等も当然必要ですが、「志」や「使命感」、私流の言葉で言えば意味を問い深く生きていることもまた重要ではないかと思っています。

7月24・25日に、同窓会岡山大会―講演・記念講演・懇親会・巡検等―が開催されます。多くの同窓生の皆様とお会いでき、語り合えることを楽しみにしております。

山口県 西川敏之



真鍋氏の見事なハーモニカ演奏に合わせ、全員で歌いました

役員等名簿

自 平成21年6月1日～至 平成23年5月31日

役職名	氏名	ブロック名	各 県 評 議 員													
会 長	大橋 博(兵庫)	近 畿 ①	北海道 青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟	西澤 亨一 川村 庸子 糟谷 文夫 石垣 隆孝 佐藤 晃 永嶋 啓一 吉田 重郎 大島 壽 青木 雅夫 松尾 鉄城 柳生 和男 小山田 穰 児玉 祥一 碓井 欣一	富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 静岡 愛知 三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	森山 沼田 杉田 梶原 原 野 岡 浮穴 鈴木 田中 田中 田端 柴山 久保 和田 西端	義人 良一 和一 正史 俊朗 隆 學 均 勉 吉巳 孝司 雅由 哲成 光昭 幸信	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高松 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎	田中 若田 大久保 林 石川 田村 野島 清田 川崎 西河 草場 竹内 八間 有定 鬼塚	健 進 勉 保 芳己 明敏 悟 公典 三雄 武 聡宏 カ子 隆彦 裕雅 武利	鹿児島 沖縄 神戸市	市來 糸数 位上	洋 公 剛 孝之			
副 会 長	研究部	中尾 豊喜(大阪)	近 畿 ②													
	組織部	川合 康司(岐阜)	中部・東海													
	総務部	石井 生滋(兵庫)	近 畿 ①													
	事業部	和田 光昭(奈良)	近 畿 ③													
	広報部	西川 敏之(山口)	西中国・四国													
	会計部	北山 鎮道(岡山)	東中国・四国													
	院生代表		院 生 協													
監 事	◎望月 茂(静岡) 塚崎博行(兵庫) 広岡俊二(兵庫) 早川 求(島根) 中根弘之(岐阜) 岡崎 弘(和歌山) 中園大三郎(大阪) 牛田敏雄(三重) 中本幸美(大阪) 畑中佳美(京都) 小西豊文(大阪) ◎は監事長															
顧 問	吉田 廣(兵庫)															
各 ブ ロ ッ ク 代 表 者 氏 名	ブロック名	ブロック長	副ブロック長	担当部	各部担当者氏名(理事)											
	東北・北海道	川村 庸子(岩手)	今野 英二(宮城)		菅原 廣次(宮城) 西前 弘幸(岩手)											
	関 東	石井 清文(東京)	松尾 鉄城(埼玉) 大島 壽(栃木)		壺内 明(東京) 荒井 豊(埼玉)											
	中部・東海	◎ 玉木 隆(岐阜) (◎印は代表)	勝保 得男(静岡)	組織部 (5名)	森 社(岐阜) 鈴木 均(愛知) 幸脇 直久(岐阜) 田中 勉(三重) 須山嘉七郎(静岡)											
	近 畿 ① (兵庫・京都・滋賀)	石井 生滋(兵庫)	田中 吉巳(滋賀) 畑中 佳美(京都) 位上 孝之(神戸)	総務部 (7名)	森 一郎(兵庫) 笠沙 敏彦(京都) 谷口 大三(兵庫) 松村 喬(滋賀) 船本 秀忠(兵庫) 得能 弘一(兵庫) 伊藤 泰弘(兵庫)											
	近 畿 ② (大 阪)	大槻 雅俊(大阪)	柴山 雅由(大阪) 塩見 能和(大阪)	研究部 (3名)	太田 久(大阪) 武井 英明(大阪) 田窪 豊(大阪)											
	近 畿 ③ (兵庫・奈良・和歌山)	岡崎 弘(和歌山)	和田 光昭(奈良) 川崎 寛(和歌山)	事業部 (5名)	浜野 重治(和歌山) 上西 一郎(兵庫) 西端 幸信(和歌山) 田中 嘉明(兵庫) 菅野 恭介(兵庫)											
	西 中 国 (山口・島根・広島)	久樂 信吾(山口)	柿手 宣昭(広島)	広報部 (5名)	市川 博登(広島) 藤原 尚幸(島根) 藤本 浩行(山口) 毛利 直巳(島根) 久樂 信吾(山口)											
	東中国・四国 (岡山・鳥取・四国)	武 泰稔(岡山)	清田 公典(愛媛)	会計部 (3名)	大久保 勉(岡山) 清田 公典(愛媛) 安治 紘紀(鳥取)											
九 州 (沖縄を含む)	鬼塚 武利(宮崎)	草場 聡宏(佐賀) 村上 良典(鹿児島)		野中 純(長崎) 草場 聡宏(佐賀) 有定 裕雅(大分)												
参 与	武 泰稔 酒巻 成欣 塩瀬 昌雄 右藤 和弘															
事務局長	伊藤 泰弘(兵庫)															

第29回兵庫教育大学大学院同窓会・愛媛大会



第29回 兵庫教育大学大学院同窓会全国大会（愛媛大会） 平成21年7月25日 於 松山市にぎたつ会館



▲ 総 会



▲ 懇 親 会

次回は

岡山大会で

集おう

期日：平成22年7月24日(土)

～25日(日)

会場：ピュアリティまきび

▶ 巡 検 (道後温泉)

